

ほけんだより 2月

2月3日には立春を迎え、季節は少しずつ春に近づいていきます。もうしばらくは低温、低湿の冬が続きますが、風邪をよせつけない丈夫な体づくり、環境づくりに気を配り、寒い冬を元気にのりきりましょう。

～緊急事態宣言にともなう保育について～

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、福岡県にも緊急事態宣言が発令されました。子どもさんの登園については先日お手紙でもお知らせした通りですが、もう一度、確認していただき、みんなで感染予防に努めましょう。

- ・以上児さんは必ずマスクを着用して登園してください。(予備のマスクも忘れずに持たせてください。)
- ・37.5度以上の熱がある場合、熱がなくても咳が続いている場合は登園を控えてください。
- ・ご家族、同居されている方がPCR検査を受けられる場合は、必ず園までお知らせください。
- ・送迎については未満児さんは保育室前まで、以上児さんは玄関まで送迎をお願いします。保護者の方もマスク着用のうえ、玄関での消毒をお願いします。

※子どもさんが体調不良でお休みされた場合は、すぐに登園せず体調が回復して1日は自宅で様子を見て頂きますようお願いいたします。

歯磨きで虫歯予防

12月～2月の寒い時期は甘いものを食べるが多くなります。寒いからと言って歯磨きをさぼったり適当に磨いたりしていると、虫歯の原因になります。虫歯菌の好物を口の中に残さないためにも、しっかり歯を磨きましょう。また、虫歯の治療がまだのお子さんは早めに治療をお願いします。特にゆり組さんは小学校入学前に治療しておきましょう。



3歳以降の肥満に要注意！！

近年、食文化の欧米化により、肥満傾向の子供が増えてきています。3～6歳にかけて太ってきた場合、そのまま肥満につながり治りにくくなります。就学前に規則正しい食習慣を身につけ、生活習慣を改善するようにしましょう。

食生活の見直しを

- ・朝食をしっかり食べる。
- ・糖分や油分が多いものを控える。
- ・よく噛んで食べる。
- ・早食い・ながら食いを避ける。
- ・スナックやジュースを摂りすぎない。



意識的に体を動かして

肥満気味の子どもは、体を動かすことを避ける傾向があります。本人の好きな遊びで、楽しく体を動かすようにしていきましょう。

鼻水が長引くのは病気のサイン!?

<p>鼻は呼吸や病気の予防に役割を果たす大切な気管。気になる症状があったら、耳鼻科を受診しましょう!</p>	<p>かぜをひいていないのに、しょっちゅう鼻が詰まったり、鼻水が出たりしている</p> <p>→アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎などの疑い</p>
<p>鼻詰まりがあり、しきりに耳を触る</p> <p>→急性中耳炎の疑い</p>	<p>いつも目やにや鼻水が出ている</p> <p>→鼻涙管閉そくや結膜炎の疑い</p>



「聞く力」を育むために～まずは、聞く態勢づくりから～ (言語聴覚士・保育士 塚原桂子)

当園の掲げる、望ましい子どもの姿の1つに「落ち着いて人の話が聞ける子ども」があります。「聞く」ということは、新しいことばを獲得する上で必要不可欠であり、日常生活場面で指示を理解したり、相手の思いや考えを理解したりする上でも重要です。就学すると、教師の指示を聞いてスムーズに行動に移したり、ことばを聞いて各教科の学習に取り組んだりしていかなければなりません。

現代の子どもを取り巻く環境は、テレビやDVD、スマートフォンのアプリ、you tube 動画など多くの視覚情報で溢れています。それらは、有益な情報を与えてくれる一方、発せられる情報は、一方通行であるため子どもたちは情報の受け身とならざるを得なくなり、主体的に見たり、聞いたり、考えたりする機会が減ることが危惧されます。子どもたちの中には、目の前の視覚情報に注意が向き過ぎて、耳から入ってくる音やことばに注意が向かず、聴力には異常がないのに、まるで「聞こえていない」状況になっている子どももいます。

では、「聞く」力を育んでいくために子どもたちにどのような関わりをしていったらいいのでしょうか。まず相手の話を聞く準備段階として、「相手への注目」が重要です。そして、「相手が見ているものを見る(共同注意)」や、「相手の顔色や様子をうかがう(社会的参照)」、「相手に合わせる」ことが重要です。これらは対人関係の基礎的な力で、乳児期から他者との非言語コミュニケーション(ことばではなく、指差し、身振り、視線、表情、声のトーンなど)を介して培われていきます。これらの力を高めるために以下に挙げる関わり方が大切になると考えられます。

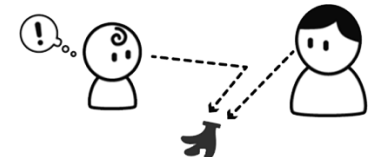
① 間をつくる(例:矢継ぎ早に話しかけるのではなく「今日のおやつは・・・ケーキ」のように間を持たせることで子どもに「なんだろう?」と思わせ、大人の様子を見させる機会を作る)

② オーバーリアクションを取る(大人が身振りや表情の変化を大きくすることで子どもが大人に注目する機会を作る)



それ取って

③ ことばではなく、視線で伝える(例:「それ取って」と敢えてことばで伝えず、子どもに取ってほしい物に大人が視線を向けることで大人の様子を見て子どもが状況を読み取る機会を作る)



④ 相手に合わせて動く活動(例:一緒に物を運ぶ、布団のシーツを一緒に敷くなどを通して子どもが相手のタイミングや動きに合わせる機会を作る)



「聞く力」を育むために、まずは、子どもが興味や関心を持って相手を見たり、他者の表情や様子、動きから他者の感情や意思を推察したりする機会を設けていけるといいですね!